

10. 悩み・不安について

Q39 現在、悩みや不安がありますか [択一]

現在の悩みや不安に関して、「特にない」と回答した学生は 36.0%、「多少はある」は 57.8%であった。「特にない」において男子学生 41.4%に対して女子学生 29.5%であり、男子学生のほうが高い。一方で「多少はある」において男子学生 52.2%に対して女子学生 66.9%であるから、女子学生のほうが高い。男子学生に関しては「深刻な問題を抱えている」が 6.0%であり、5%を上回っていた。

「ある」に関して、2001 年度 80.3%、2005 年度 85.0%、2010 年度 64.1%、2015 年度 62.5%となっている。2001 年度から 2005 年度では増加したが、2005 年度から 2010 年度で大きく減少している。ただし、悩みや不安が「ある」学生は常に半数を大きく上回っていることは忘れてはならない。

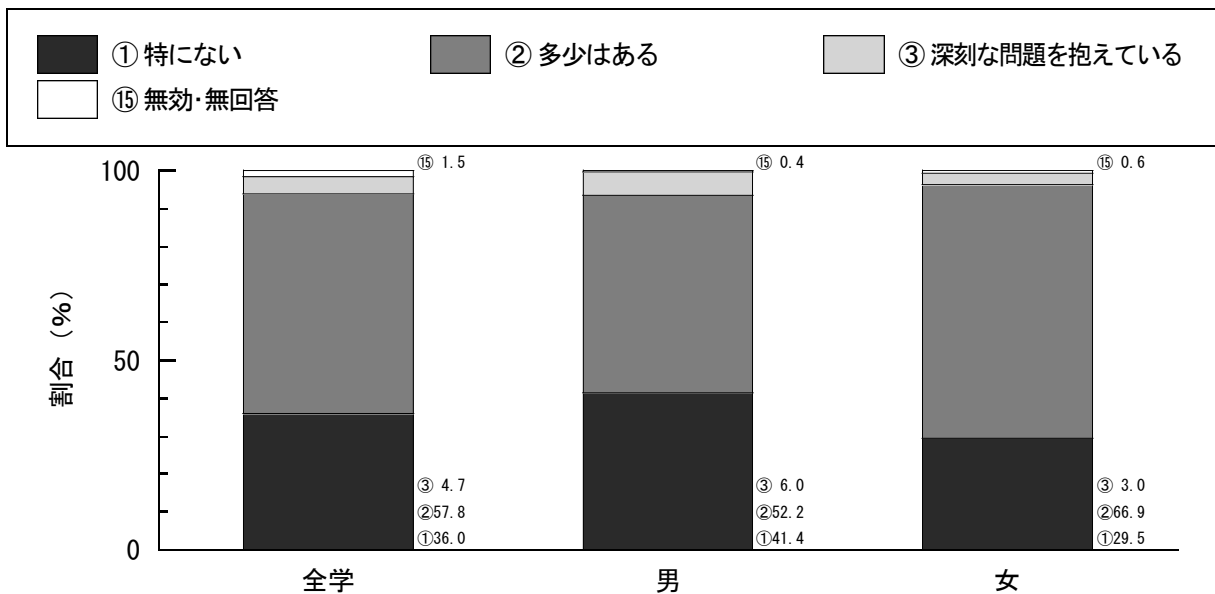


図 10-1-a Q39 の集計結果 (全学・男・女別)

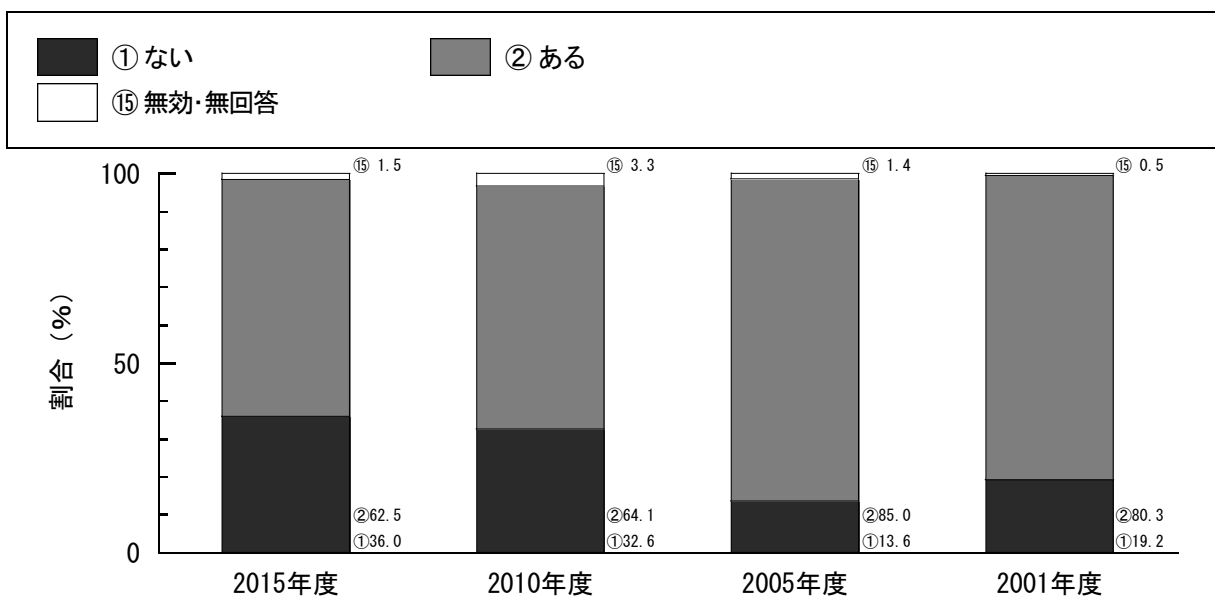


図 10-1-b Q39 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q39-SQ1₁ 現在抱えている悩みや不安は、主にどんなことについてですか

(悩みの大きさの順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第1位>

最も高いのは「就職や進路」で33.4%、次いで「勉学上のこと」の31.7%、そして「経済的なこと」の6.6%とつづいている。男子学生、女子学生ともにこの上位3つが高かったことに違いはない。男子学生における「勉学上のこと」34.7%は、女子学生28.5%よりも高い。一方で、女子学生においては、「友人関係」と「自分の性格」に関して5%を上回っている。

2010年度と2015年度の間における相違はほとんどみられない。

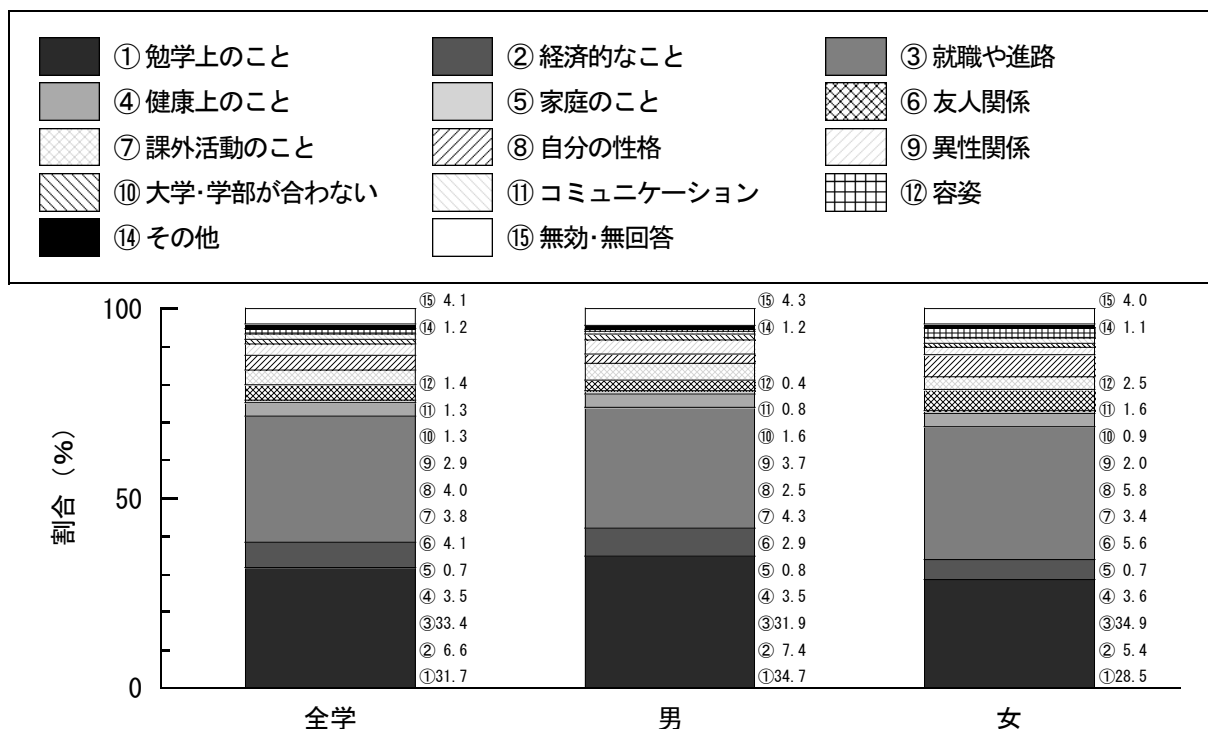


図 10-2-a Q39-SQ1₁の集計結果 (全学・男・女別)

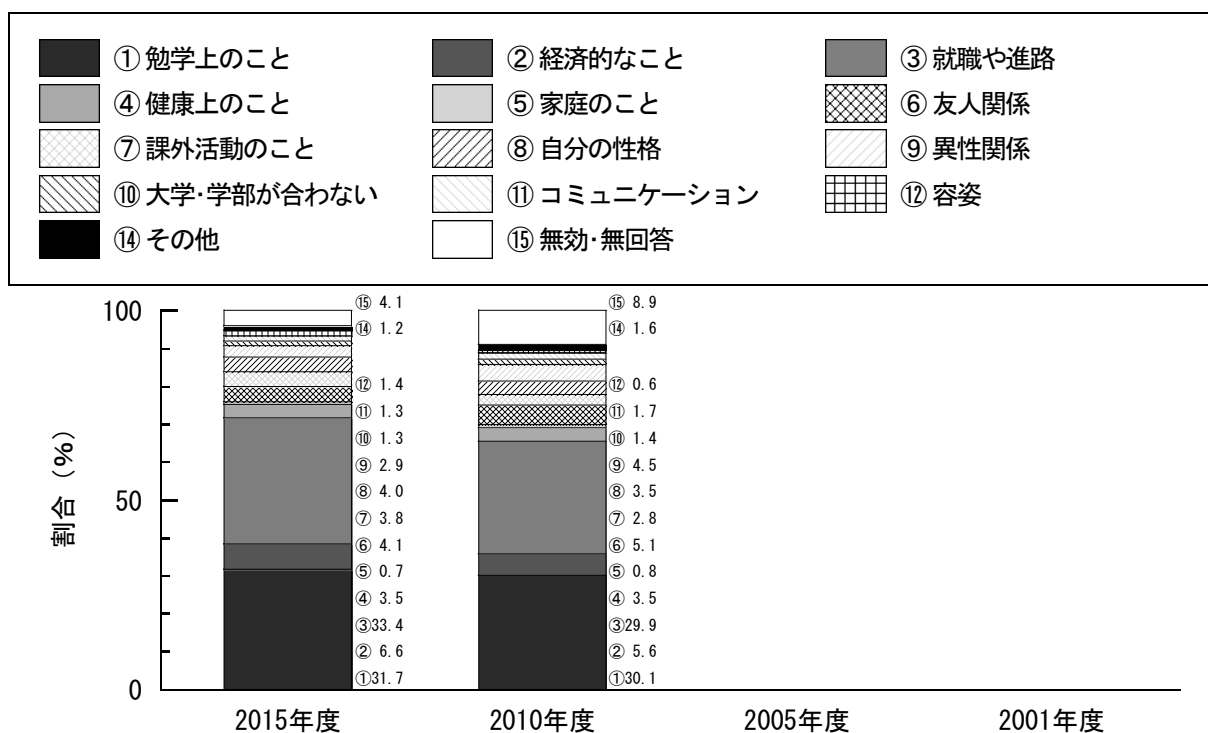


図 10-2-b Q39-SQ1₁の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q39-SQ1₂ 現在抱えている悩みや不安は、主にどんなことについてですか

(悩みの大きさの順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第2位>

優先度第2位においても「就職や進路」、「勉強上のこと」、「経済的なこと」の選択率は高い傾向にある。一方で、「経済的なこと」の選択率は優先度第1位での6.6%より若干高くなっているように感じられる。また優先度1位では少数意見であった「健康上のこと」、「友人関係」、「自分の性格」が第2位では5%を上回っている。男女間における相違はほとんどみられない。

基本的には2010年度と2015年度の間における相違はほとんどみられないが、2010年度では「異性関係」が5%を上回っている。

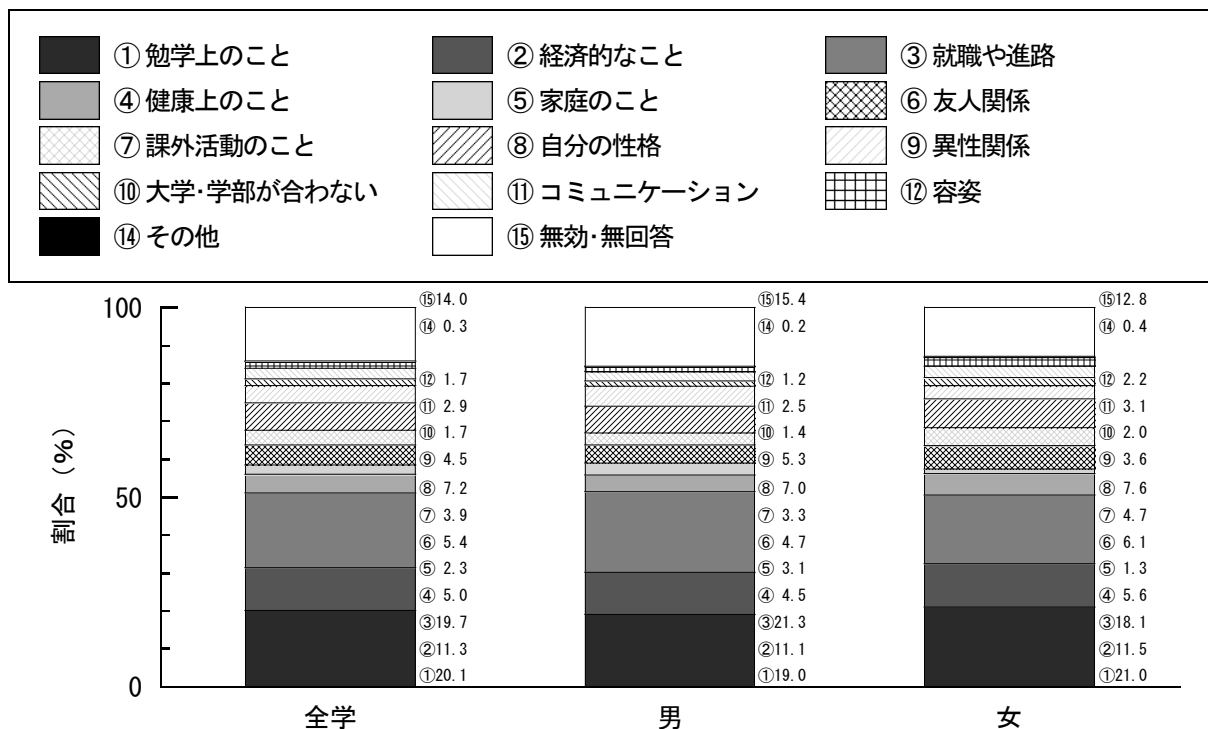


図 10-3-a Q39-SQ1₂の集計結果 (全学・男・女別)

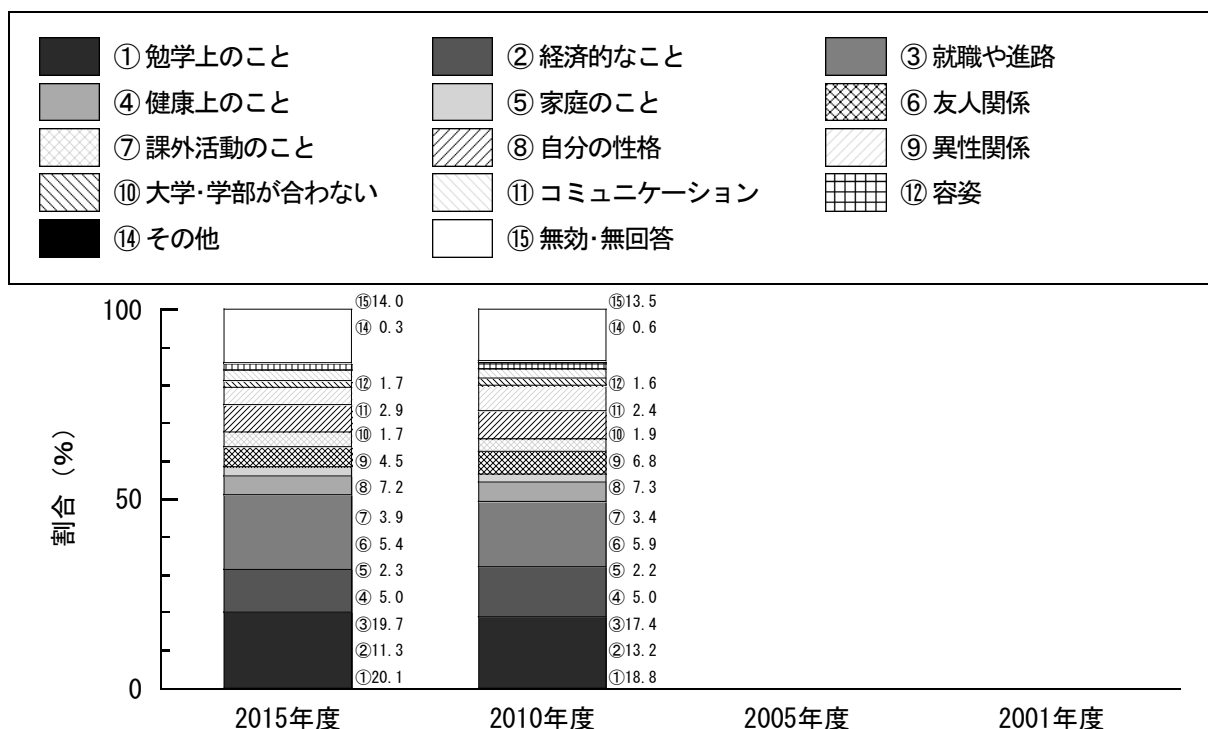


図 10-3-b Q39-SQ1₂の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q39-SQ1₃ 現在抱えている悩みや不安は、主にどんなことについてですか

(悩みの大きさの順に3つ選択して右欄に記入してください) <優先度第3位>

優先度第3位においても「就職や進路」、「勉学上のこと」、「経済的なこと」の選択率はおよそ高い傾向にある。優先度第2位において7.2%であった「自分の性格」が、優先度第3位では10.0%と上記3項目と並ぶ値を示した。「課外活動のこと」、「異性関係」、「コミュニケーション」が新たに5%を超えている。男女間における相違はほとんどみられない。

2010年度と2015年度の間における相違はほとんどみられない。

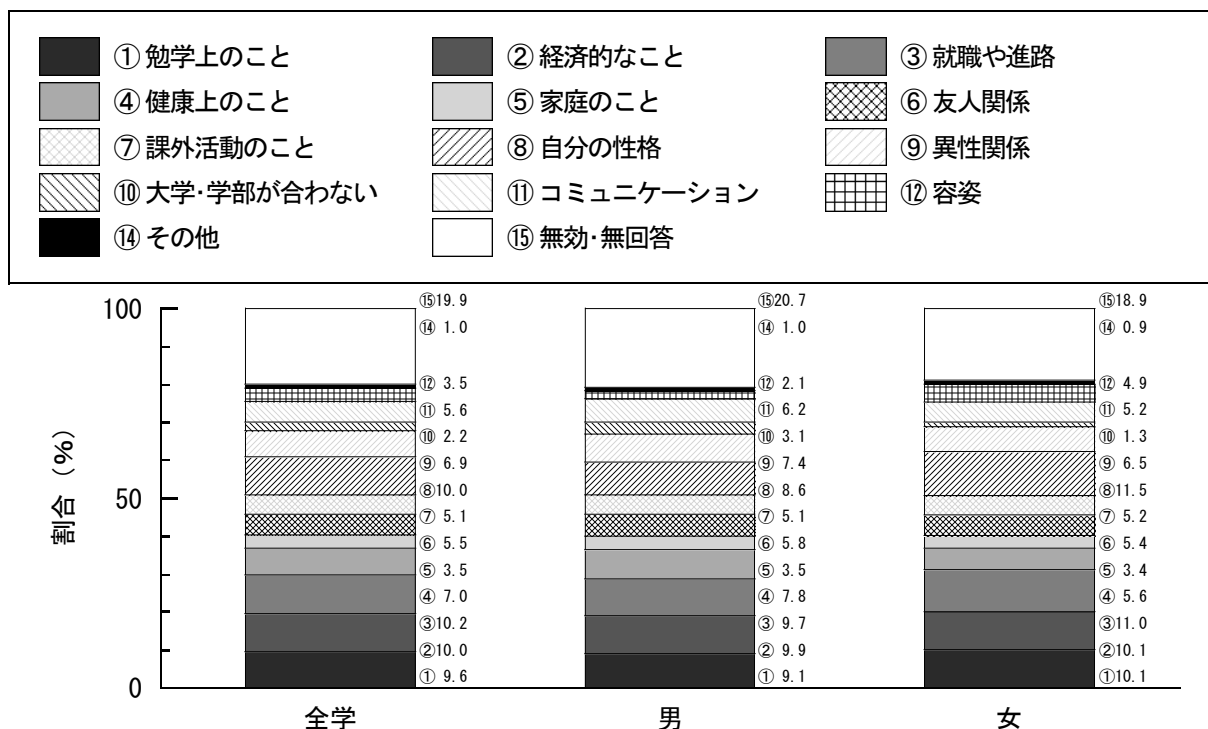


図 10-4-a Q39-SQ1₃の集計結果 (全学・男・女別)

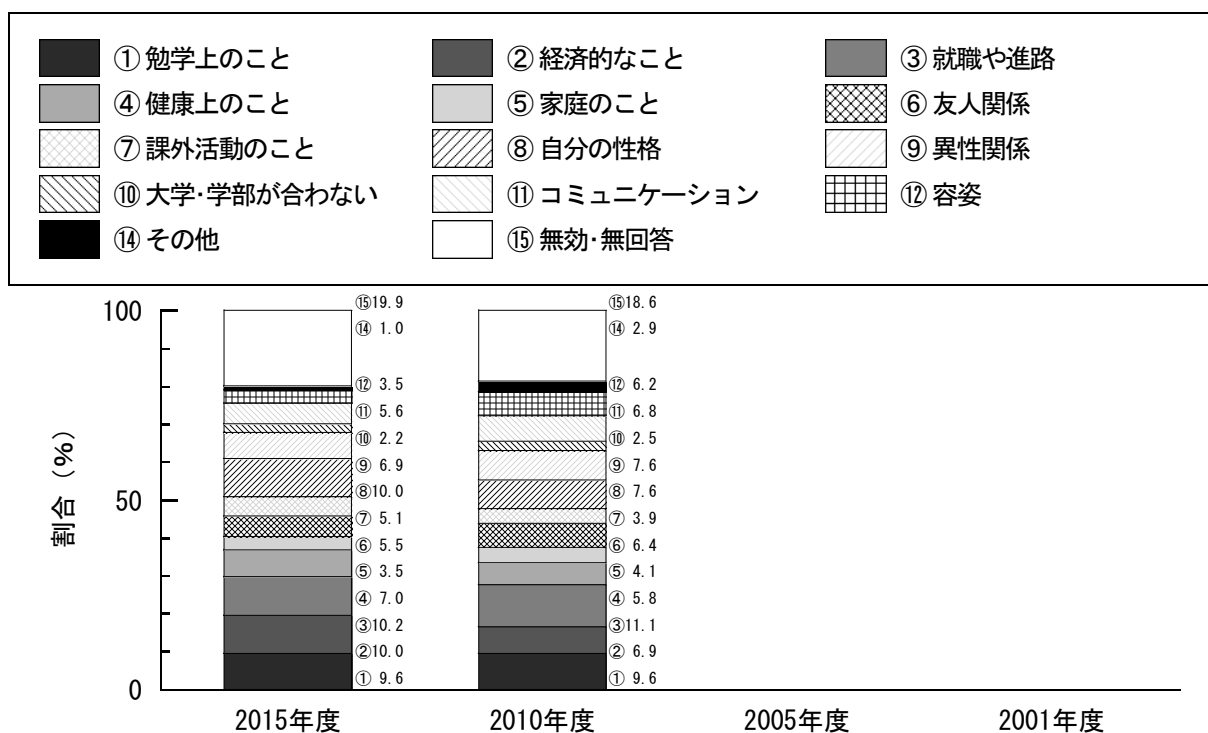


図 10-4-b Q39-SQ1₃の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q40₁ 悩みや不安が生じたとき、主にどのような手段で解消することが多いですか

(多い手段の順に3つ選択して右欄に記入して下さい) <優先度第1位>

悩みや不安の解消方法として最も高かったのは「他人に頼らず一人で努力する」で37.6%であった。次いで「先輩や友人に相談する」の31.3%、そして「家族に相談する」14.6%、「問題を先送りにして、成り行きに任せることが多い」10.2%となっている。男子学生においては全学の3番目と4番目に関して順位に逆転が生じている。また女子学生においては全学の1番目と2番目に関して順位に逆転が生じている。男子学生の「他人に頼らず一人で努力する」は42.2%と、女子学生の31.7%と比べると高い。一方で、「先輩や友人に相談する」や「家族に相談する」に関しては女子学生のほうが男子学生よりも高い。

2010年度の「無効・無回答」の割合が21.5%と、2015年度の4.1%と比べて非常に大きいことから、単純に比較することは困難である。ただし2015年度の上位4項目は、2010年度でも高く、その順位も同様である。

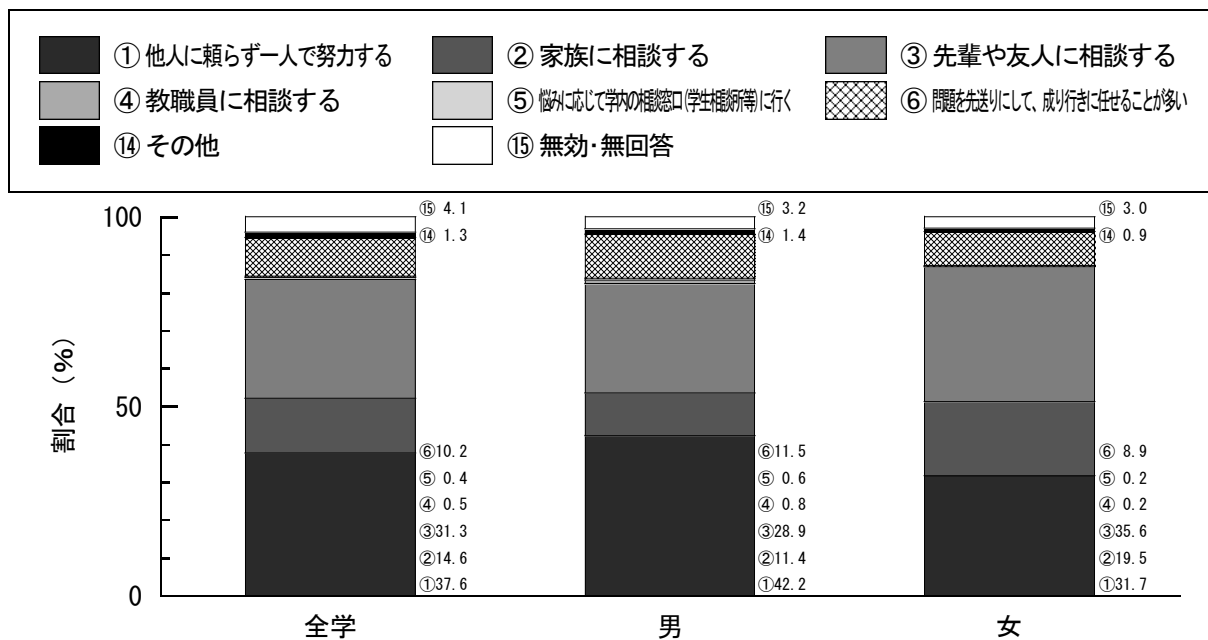


図 10-5-a Q40₁の集計結果 (全学・男・女別)

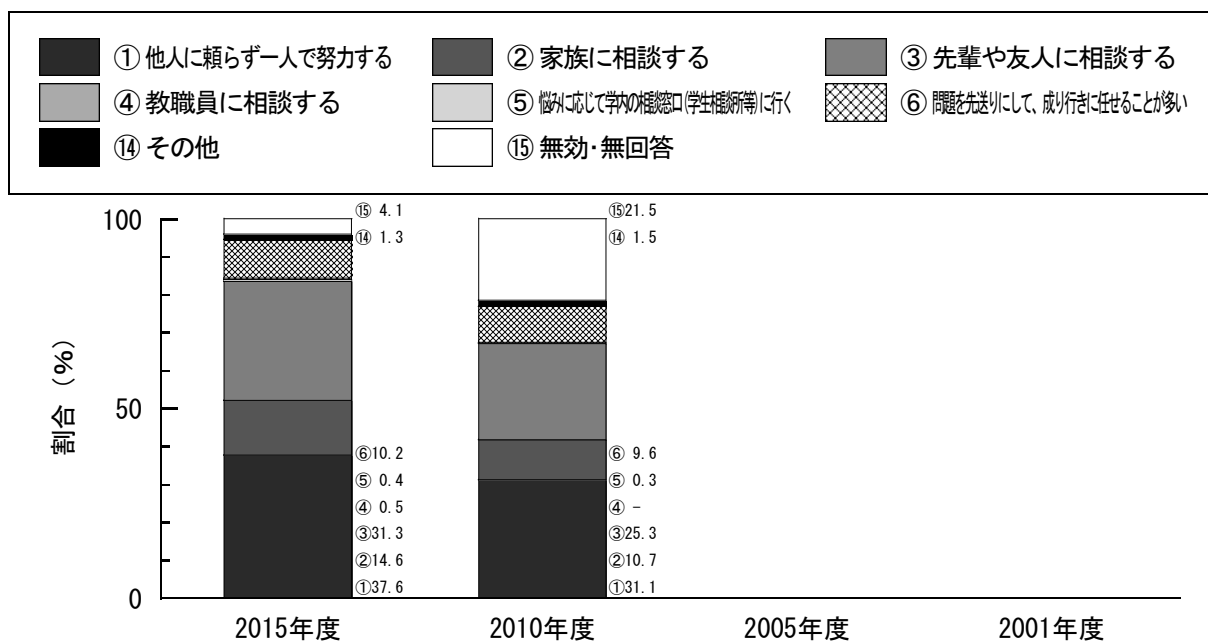


図 10-5-b Q40₁の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q40₂ 悩みや不安が生じたとき、主にどのような手段で解消することが多いですか

(多い手段の順に3つ選択して右欄に記入して下さい) <優先度第2位>

優先度第2位において、最も高かったのは「先輩や友人に相談する」で23.8%であった。次いで「家族に相談する」の19.3%、そして「他人に頼らず一人で努力する」15.4%、「問題を先送りにして、成り行きに任せることが多い」12.2%となっている。優先度第1位における1番目が3番目となり、優先度第1位における2番目と3番目に関して1つずつ順位が上がっている。ただし2番目と3番目の値にはそれほど大きな差は感じられない。男女においてもこの順位は変わっていない。「無効・無回答」は「該当する方法がない」と仮定すると、26.7%の学生は優先度1位で選択した方法のみで悩みや不安を解消しているということになる。「無効・無回答」に関して男子学生は30.5%であり女子学生は19.9%であるから、男子学生のほうがその傾向が強いということになる。2010年度において、上位4つの順位は2015年度と同様であり、値に関しても差異はほとんどみられない。

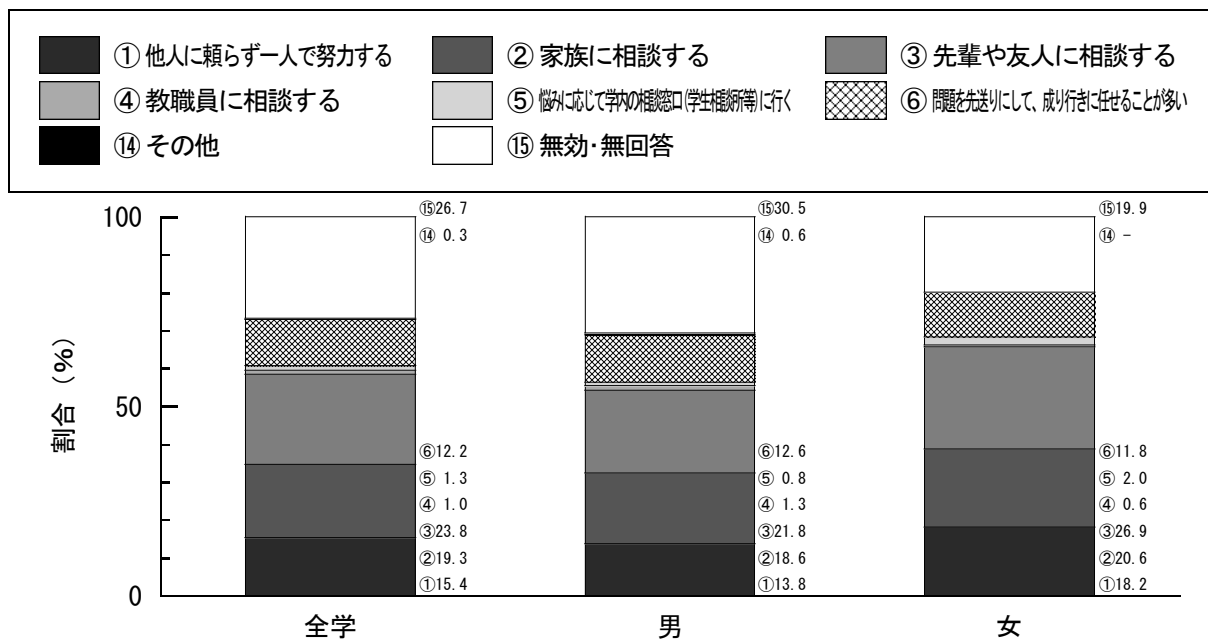


図 10-6-a Q40₂の集計結果 (全学・男・女別)

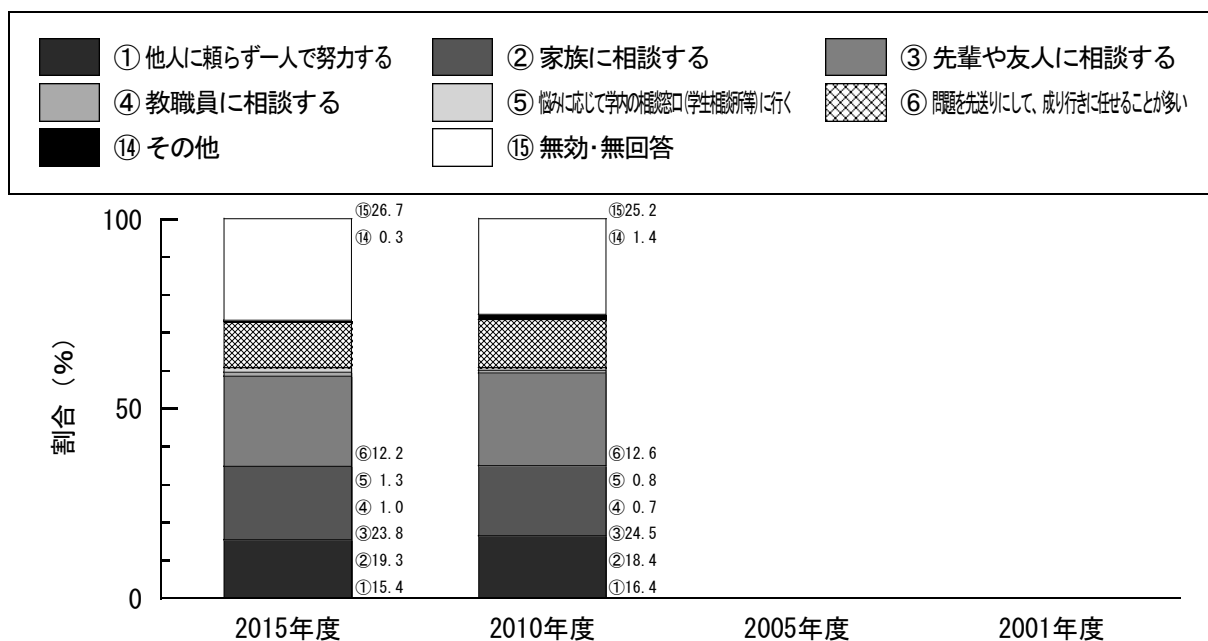


図 10-6-b Q40₂の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q40₃ 悩みや不安が生じたとき、主にどのような手段で解消することが多いですか

(多い手段の順に3つ選択して右欄に記入して下さい) <優先度第3位>

優先度第3位において、最も高かったのは「問題を先送りにして、成り行きに任せることが多い」で18.6%であった。次いで「先輩や友人に相談する」の16.2%であった。「他人に頼らず一人で努力する」12.8%と「家族に相談する」12.4%はその値の差がほとんどない。優先度第1位における4番目のものがここでは1番目となっている。「無効・無回答」は32.6%と優先度第2位の値より大きくなっている。上位4つの順位に関して、男女間に差はみられない。一方で「無効・無回答」に関して、男子学生35.7%、女子学生26.6%であるから、男子学生のほうが高い。

2010年度においても2015年度とほぼ類似した傾向であったように思われる。

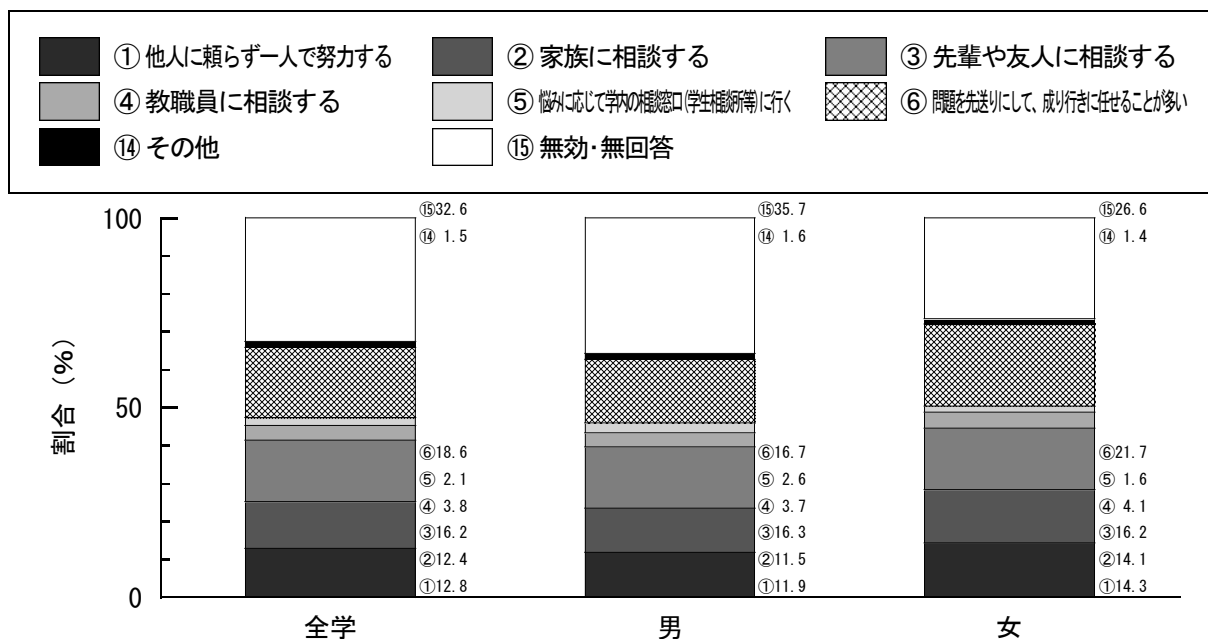


図 10-7-a Q40₃の集計結果 (全学・男・女別)

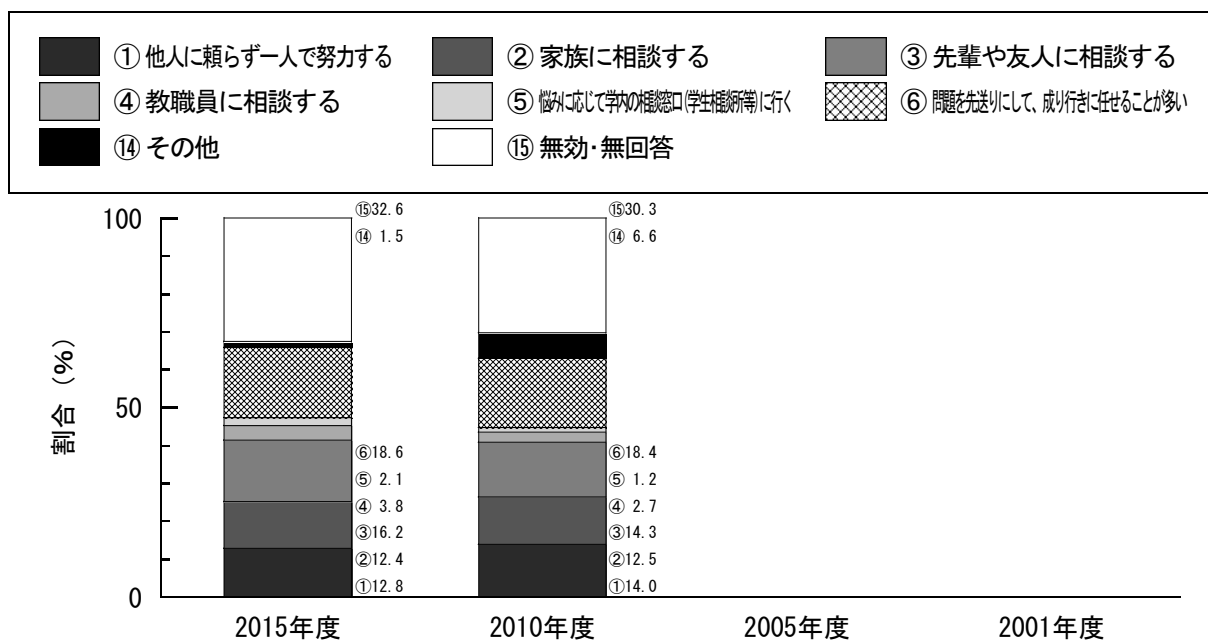


図 10-7-b Q40₃の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q41 あなたは心を打ち明けて何でも話したり相談したりすることが出来る
親しい友人がいますか [択一]

相談相手となる親友が「いる」と回答した学生は 82.2%、「いない」は 16.4%であった。「いない」に関して、男子学生 19.8%に対して、女子学生は 12.1%と男子学生のほうがその傾向が高い。とは言え、女子学生でも 12.1%とおおよそ 1 割の学生に相談相手となる親友が「いない」という状況には目を向けるべきである。

いずれの年度においても「いる」と回答した学生はおおよそ 8 割ないし 8 割を超えている状況であった。しかし「いない」に関しては、2001 年度 11.4%、2005 年度 12.8%、2010 年度 16.9%、2015 年度 16.4%となっており、2005 年度から 2010 年度に増加し、現在もその傾向が継続しているようである。

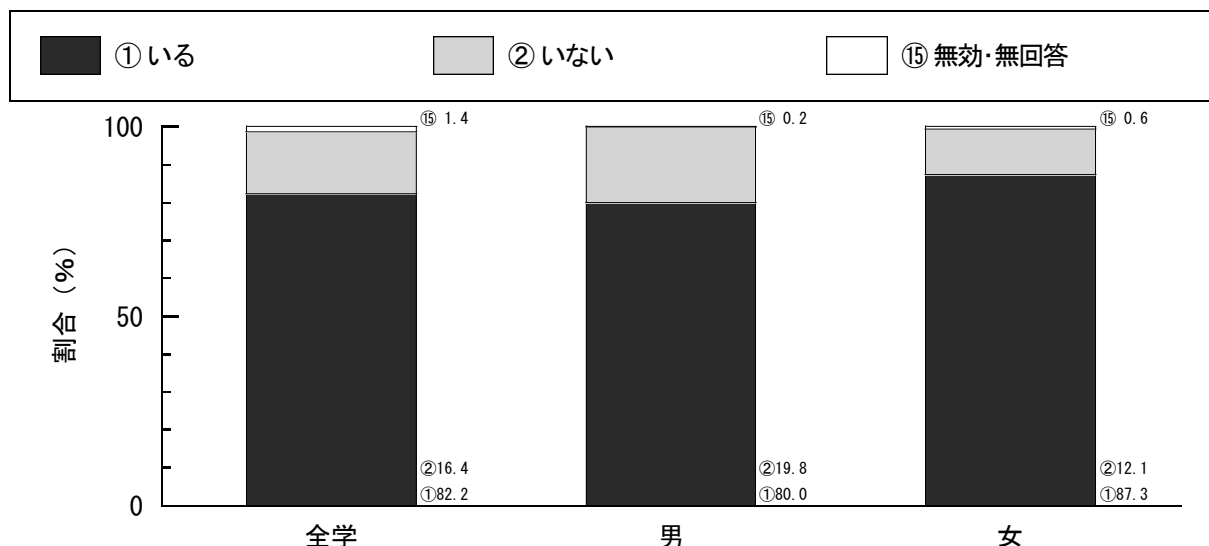


図 10-8-a Q41 の集計結果 (全学・男・女別)

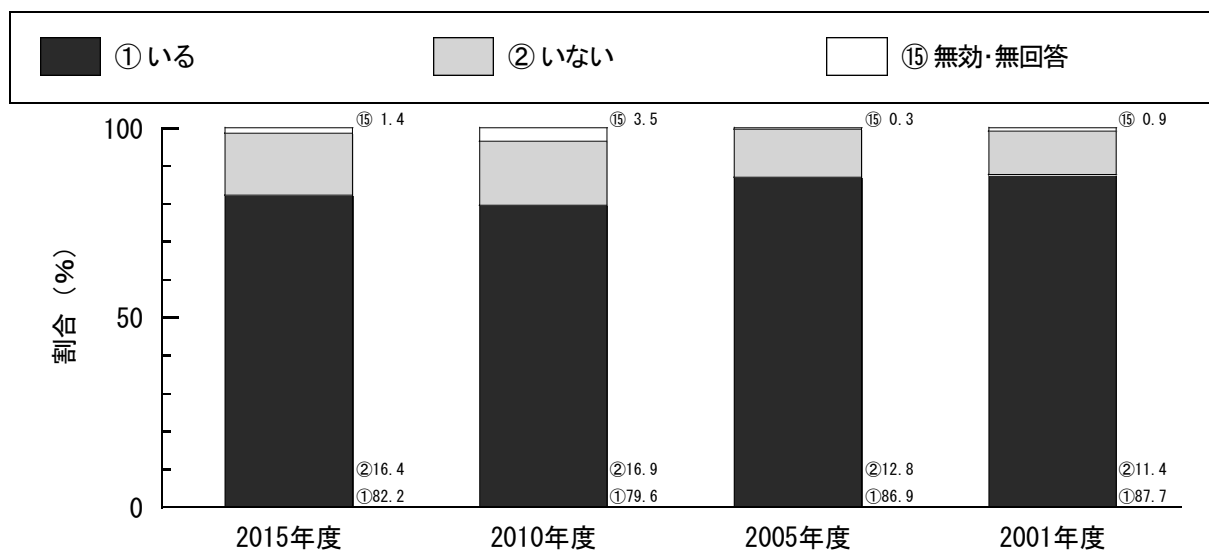


図 10-8-b Q41 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q41-SQ1 それはどういう友人ですか [複数選択可]

最も多かったのは「中・高校時代の友人」で59.6%、次いで「サークル・仲間」の39.1%、そして「研究室やゼミ・クラスの友人」34.0%となっている。大学時代の友人よりも「中・高校時代の友人」のほうが相談相手になりやすいということである。「アルバイト仲間」や「下宿・寮や近所の友人」に関しても5%を上回っている。

「中・高校時代の友人」および「研究室やゼミ・クラスの友人」に関しては、男子学生より女子学生の選択率が高い。一方で「下宿・寮や近所の友人」に関しては、男子学生の選択率が高い。

いずれの年度においても、2015年度における上位3つの選択率は高かった。「中・高校時代の友人」に関して、2001年度は69.8%に対して、その他の年度はおおよそ6割であるから2001年度から2005年度で減少した。「サークル・仲間」に関しては、いずれの年度においておおよそ4割で大きな変化はみられない。「研究室やゼミ・クラスの友人」に関しては、2001年度44.2%、2005年度42.0%、2010年度40.3%、2015年度34.0%であるから減少傾向にある。

表 10-1-a Q41-SQ1 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
サークル・仲間	39.1	38.5	39.9
中・高校時代の友人	59.6	53.5	66.7
下宿・寮や近所の友人	6.4	8.8	3.6
研究室やゼミ・クラスの友人	34.0	29.1	40.1
アルバイト仲間	6.7	7.2	5.9
その他	4.4	4.6	4.0

表 10-1-b Q41-SQ1 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
サークル・仲間	39.1	40.1	36.8	39.8
中・高校時代の友人	59.6	59.2	58.2	69.8
下宿・寮や近所の友人	6.4	4.8	6.7	8.3
研究室やゼミ・クラスの友人	34.0	40.3	42.0	44.2
アルバイト仲間	6.7	-	6.8	10.1
その他	4.4	3.9	5.5	3.8

Q42 あなたは異性との付き合いがありますか [択一]

「異性との付き合いはない」と回答した学生は23.5%とおよそ4分の1ということになる。異性との付き合い方に関して、最も高いのは「友達として付き合っている」の39.2%、次いで「恋人として付き合っている」の26.6%であった。「異性との付き合いはない」に関しては、男子学生30.3%であるのに対して女子学生14.8%で、男子学生の方が高い。

「異性との付き合いはない」に関して、2001年度14.7%、2005年度18.0%、2010年度21.7%、2015年度23.5%と年度につれて増加傾向にある。2001年度では「恋人として付き合っている」割合が「友達として付き合っている」割合を上回っていたが、2005年度に逆転し、2010年度以降その傾向が高まっている。

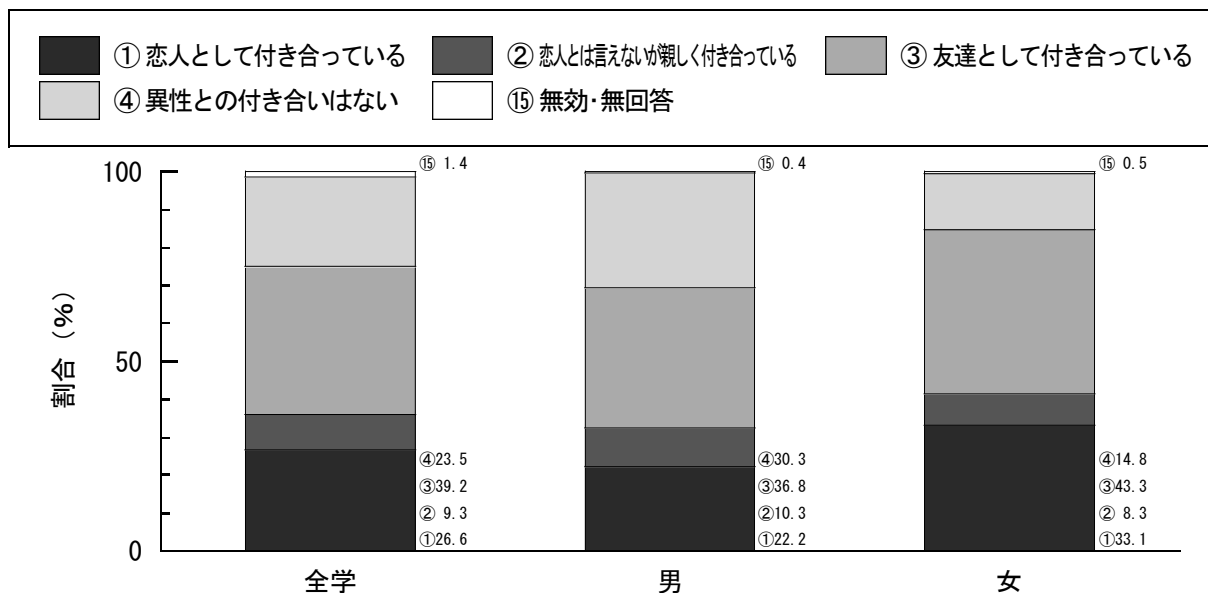


図 10-9-a Q42 の集計結果 (全学・男・女別)

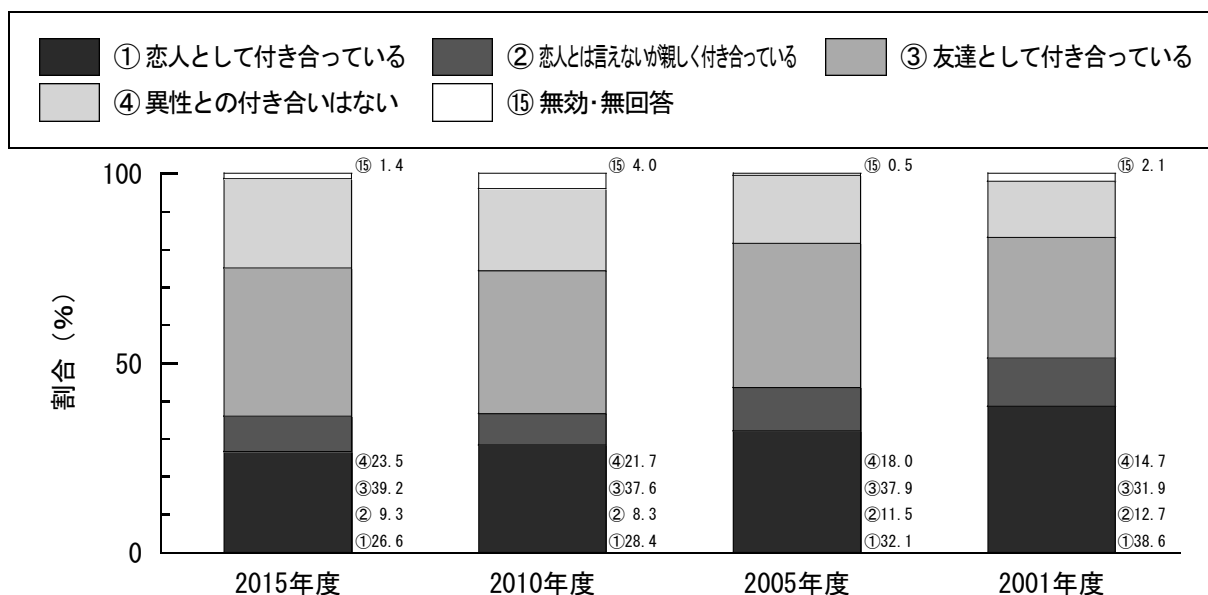


図 10-9-b Q42 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q43 本学には、次のような学生相談窓口や情報を提供する窓口が設置されています
知っているものを全て選んでください〔複数選択可〕

「なんでも相談窓口」と「健康相談全般（保健管理センター）」に関しては、半分以上の認知度があった。また「進学・就職相談」と「カウンセリング（学生相談所）」に関しても4割を上回っており低くはない。「なんでも相談窓口」と「健康相談全般（保健管理センター）」に関しては男女間に5%以上の違いがある。その他の項目に関しては、男女間による認知度の違いはほとんどみられない。

いずれの部署に関しても、2010年度と比べて値が増加している。その差が小さい部署に関して認知度が上がったと明言することは難しいが、その差が5%以上ある「なんでも相談窓口」、「健康相談全般（保健管理センター）」に関しては、認知度が上がったと言ってよいだろう。

表 10-2-a Q43 の集計結果（全学・男・女別）

	全学	男	女
なんでも相談窓口	63.2	60.1	68.6
カウンセリング(学生相談所)	40.2	39.8	41.6
健康相談全般(保健管理センター)	52.6	48.2	59.5
進学・就職相談	47.5	47.2	48.7
ハラスメント相談(ハラスメント防止委員会)	16.8	15.6	18.7
学習相談支援室(大学教育センター)	27.5	27.5	27.9

表 10-2-b Q43 の集計結果（全学に関する調査年度別）

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
なんでも相談窓口	63.2	43.9		
カウンセリング(学生相談所)	40.2	37.2		
健康相談全般(保健管理センター)	52.6	47.4		
進学・就職相談	47.5	44.9		
ハラスメント相談(ハラスメント防止委員会)	16.8	15.6		
学習相談支援室(大学教育センター)	27.5	23.3		